山とスキー

第五十七號

札幌 山とスキーの會 發行

大正十二年七月廿七日第三種郵便物認可
大正十五年一月三十日印刷納本
大正十五年二月一日發行（毎月一回一日發行）

◇本誌は創刊號より秩父宮殿下の御愛讀を得てをります◇

第五十七號目次

記事

ストーに就いて　六鹿一彦〔一〕
一月の暑寒別岳登山　須藤宣之助〔六〕
スキー兩杖と海豹の皮の研究　小森太郎〔一〇〕
フインランドに新設せられたジャムピングヒルについて　廣田生〔一六〕
伯林から（木原均氏より）
臺報抄錄

寫眞版

飛躍（北海道豫選大會）
フインランド。ラハテイー。シャンツエ

大正十五年二月發行

優秀なるレコードは
優秀なるスキーに依る!!

斯界第一
大量製産
ツバメ印スキー

全國有名店に有り

製造元
札幌市
中野商店
スキー部

青山温泉

近くニセコアンヌプリ、チセヌプリの秀峰をひかへ緩急思ひのまゝのスロープは積雪豐富、雪質絶佳に又完全なるスキー設備を以て、スキーロイフエルの活躍を待つて居ります。

函館本線昆布驛より一里半

札幌より——五時間

函館より——七時間

飛　躍（北海道豫選大會）

ストーに就いて

六鹿一彦

ストーと云ふのは樺太で使用されて居るスキーに類似した形狀の雪上交通具である。(シベリヤに於ても使用されて居る由ではあるが、私は全く其れに就いて知らないから、樺太のものに就いてのみ記す事を許され度い。又、ストーは Skidor と綴られるそうであるが、之で見るとスドーと發音するらしいのに樺太でストーと濁音なしで發音するのは一寸奇異に感ぜられるだらう。之は樺太のアイヌが日本人に敎へた爲であるらしい。と云ふのは皆樣も御承知の通り、アイヌ語には半濁音はあるが濁音は存在しない爲、スドーも彼等にはストーとより發音出來ないと云ふ理由によるのである。)ストーは日本人にはロシヤスキーなる名稱の下に呼ばれて居て、スキーの流行する迄は盛に使用せられたもので、現在でもアイヌ人には勿論の事、日本人の間にも農夫、樵夫等には相當に利用されて居る。

ストーの最典型的のものは、長さ約一米突半、幅約十五糎、厚さ約3/4糎で、兩端はスキー先端の如くに尖つて少しばかり上方に反つて居る木片から成り、裏面には全面に海豹の皮を張りつけたものである。そして此の木片の中央部に足を接着せしめる極簡單な革紐がつけられて居る。此の締具の位置が中央部に在る事はスキーと大いに異る點である。此れを穿くのにアイヌは鮭の皮を鞣して作つた靴を用ひて居る。此のストーの形は多くのスキーの書籍で示されてある原始的狀態のスキー其物であつて、此の形狀のものが、裏面の皮が除かれて次第に變化し、遂に今日のスキーをなすに至つたと私等は敎へられて居るのである。

ストーは材料として多くはトドマツを使用し、厚さはスキーの如く場所によつて厚薄の差異があるのと異り一樣に3/4糎位である。前後の區別なく同樣の形に尖り、反りも兩端につけられてあるけれど著しくはない。中央部の反りは全然缺けて居る。私の見た範圍では板目材はなくて皆柾目材であつた。裏面全体に張りつめられた海豹の皮は長さが一枚分だけでは十分ではない爲、前後二枚の皮が中央でつないでである。そして此の皮は海豹の背部中央の部分を使用する事はスキー用のシールスキンと同樣である。皮を臺木に張りつけるには極めて原始的な獨得の接着劑が使用されて居る。それは鮭の生肉を磨り潰して糊の樣に煉り、之で皮を臺木に接着せしめるのであるが、鮭肉が乾燥すれば完全に張りついて容易には剝離しない。丁度私等が卵白を或る特殊な接合劑として使用するのと同巧異曲である。土人の使用するものはどうだか知らぬが、日本人の使用するものには、表面の木部へ大きな文字で、飛龍號とか、長鯨號とか、大變景氣のよい名が記されて居るものが多い。重量は木部が小形で薄く、締具が簡單である爲に大變輕くて、二枚重ねて樂に小脇にかいこんで歩ける。

此のストーを穿いて雪上に立つと、厚さが極めて薄いのと中央部の反りがない爲に体重に依つて中央部が沈み、兩端は上方に浮き上り、歩けば其の滑走條痕はスキーの如く平面を爲さずして凹凸の山形を呈するものである。しかし樺太の樣に強風の爲凍雪の多い土地ではストーの沈降は著しくなく、裏面の海豹皮は完全に後滑り止めの作用をして歩行は甚だ樂である。幅が廣いので少し兩足の間隔が大きくなつて、スキーを穿き慣れたものには歩き難いが、重量が輕くて自由に樂々と取り扱へる點が便利である。平地の行進や山地の登行には極めて都合がよい。滑降の點では全然スキーと比較する事は出來ぬがそれでも輪かんぢきやスノーシューよりは總べての點で優れて居ると思ふ。そして此の型のストーこそ Richardson や Caulfield の著書でスキーの原始型として示されてあるものと全く同じものである。

此の外に長さに於て前者より少し短く、厚さに於ては二三倍に及び、先端のみ反りを有して後端はスキーと同じ形狀をなし、海豹皮を張りつけないものを見た事がある。之は大いにスキーに類似し、特にゾムメルシーには幅に於て、又締具に於て異るのみで全く兩者は酷似して居る。だが之は果して在來のストーなるや否やは疑しい。スキーの進化の過程に於

て、原始的スキーの皮が取り去られ、從つて强度を增す爲木部の厚さが增加したと云ふ事實は明であるけれど、此の物が果してそんな意味に於て在來のストーから進化したかと云ふ事は大なる疑問である。此の型のストーの小形の物をノソ（犬橇）の御者が橇を驅る時に足に穿いて制動用其他に使用する點から見ると、此の物が橇から離れて獨立して用ひられ始めたのか、或は案外最近に至つてスキーを眞似て作られた安値にして不完全なスキーではあるまいか、とまで考へられる、私の見た處では皮を張つた物の方が雪上で使用した結果は良好である。だから後者が前者から進化したものとは思はれないのである。

さて此のストーは如何にして樺太に存在するやと考へるに、ロシヤスキーとの名稱はあるが、日本人が稱するだけであり、且スキーなる語は最近に至つて歐洲より傳はつた言葉であるから、昔ロシヤ人が持ち來たつたとは考へられない。事實ロシヤ人は其の本國に於てもラップランド人のスキーはあるにしろ、スキーの如きものは存して居ない。それならば樺太に於て創製されたものかと考へるに、それにしては、スキー著書に示され、一般に信じられて居る原始的スキー、しかもそれは中央アジアに於て發生したものと見られる其の品にあまりによく類似して居る。殊にストーと云ふ名稱まで語源に於て一致點を見出し得る點に於て、此の兩者即ち樺太のストーとスカンヂナビアのスキーとの間に全然關係なしとは斷言し難い。此の間、何等かの連絡があるべきである。

此の點に就いての疑問を解くには、樺太と中央アジアとの間に古來何等かの連絡の存した事を證明せねばなるまい。それに就いて樺太土着の人種を見ると、ギリヤーク、オロツコ、ツングース、アイヌ、ヤクート等であるが、此の內の最初の三者はシベリア東部に其の故鄉を有するものであるから、ストーは其の人種固有のものではなくて他人種から傳來せるものとしなくては、中央アジアのスキーとの類似の謎は解けない。次にアイヌは南方から移つたもので元來は雪と緣が薄い、殘るはヤクートであるが、不思議な事に此の人種はトルコ族であると云ふ。そしてシベリヤには多くのヤクートが居住し、樺太へは其の一部が移住したものである。ストーとトルコ族、トルコ族と中央アジア、中央アジアとスキー。此んな風に配列するとストーとスキーとの間の關係に一道の光明が差して來た樣に思はれるではないか。

鳥居龍藏博士に依れば、バイカル湖の西、アンガラ河岸に發見された赤色砂岩面には馴鹿の狩獵が彫刻されて居て、其の一隅には不思議な文字が刻まれてある。その文字と云ふのは、トルコ族がウイグル文字以前に使用したもので博士は古突厥文字と稱して居る。又之と同じ文字がニコリスク市附近でも石片上に發見されて居る。尙驚く可き事には、北海道小樽港の手宮海岸の岩壁に刻まれて居る古代文字は、シベリアに於て發見された古突厥文字と殆んど同型であつて、博士は之をも古突厥文字であると斷言されて居る。單に此の文字のみに依つても、如何に古代に於て中央アジアとシベリア又は樺太北海道との間に密接な交通があつたかゞ察知されるのである。そしてヤクート族は此のトルコ文化を東部シベリアに傳へた種族其物であるや否やは不明であるが、兎に角中央アジアの一切の文化と共に古突厥文字も此の種族又は他の何れかの種族に依つてシベリアへ傳へられた事は首肯される。そしてストーもスキーと其の起源を一とし、スキーの原始的狀態の下に於てシベリアへ傳へられたものであらう。そして樺太は往時シベリアと接續して居た事は地質學上又は動植物分布上よりして明白な事實であるから、ストーは其時以來樺太に存在したのである。そして北歐に傳へられた原始スキーは次第に發達變化して現在の如くに至つたのに反し、東部シベリアに傳へられた物は依然として舊態の儘で現在に及んだものであらうと考へられる。

以上はスキー發現地を中央アジアなりとする說を無條件に肯定した上での考であるが、然し、スキーの發生地を中央アジアなりとする說も果して正當なりや否やは大いに疑問であつて、各家の說は紛々として歸する處がないが、少くも現在のストーの形狀を以て原始的スキーの形狀なりとする點は大略一致して居る。而して事物の進步過程に於て、最初發生せる其土地の事情に著しい變化の生じない以上、其原型は發生地に殘存するものであつて、他の地方に移つた事物は、新しい周圍の影響によつて次第に原型より變化する事は一般に認められ、私等が考へても當然斯くあるべしと思はれる。故にスキー原型が現在のストーに近いものとするならば、其の發生地なる中央アジアに於て發見されねばならぬ筈であるが、却つて遠く離れた東部シベリアに其れが最初の原型に近い姿の儘で存在する事は少し奇異の感に打たれる次第である。しかも、北歐のフインランドも、東部シベリアも共に廣漠たる平原が多くて、類似した地形であるにも係らず、一は其の地

形に適當した、長大な海豹皮のない平地滑走に便利なスキーに變化して居るにも係らず、同じ狀態の下にあるシベリアのストーが何等の變化をも蒙らずに殘存するのは、之を使用する人種の文化程度の差異に依るとしても餘りに不思議である。之は或はスキーの發現地は東部シベリアのベーリング海峽やオホーツク海沿岸方面であつて、中央アジアと密接なる關係の下にあつた古代に於て西方へ傳へられて次第に變形しスカンヂナビア半島に入るに及んで遂に今日のスキーを爲すに至つたと考へるのが正當であるかも知れぬ。Richardson の Skirunner には Chrichton Somerville 氏がスキーの發現地をベーリング海峽なりと主張して居る事を記してあるが、現在私等の身近にストーを有する事から考へると、此の說が或は正當なものであるかも知れない、從來のスキーの歷史に就いて書かれたものは悉く西歐人の手になつて居て、東部アジアの種々の事情は殆んど知られて居ない。從つてシベリアのストーに就ては無知であると云つてもよく、ストーとスキーとの連絡關係等には一言も及んでない。此の點から考へて、材料の局部的に限られた西歐人の說を其儘無條件に受入れる事はどんなものであらうか。

兎に角ストーを知つて居る私等は從來スキー發現地として認められて居る中央アジアが、其實は東部アジアからストーを傳承した土地である事の主張が提出し度いではないか。そして此の主張を確證する爲にストーに就いて一層精細なる研究が行ひ度いではないか。

5

一月の暑寒別岳登山

須藤宣之助

一行　佐々木政吉　赤松勳　小森五作
　　伊藤秀五郎　澤本三郎　和辻廣樹　須藤宣之助

一月四日

冬の暑寒別岳登山はグルッペの三年來の望みだつた。で併かもその登山に適當な小屋の設備がなかつた爲天幕を張らなければならなかつたので、その不便の爲に永らく手がつけられなかつた。その後雪中の露營に數回の經驗を得たので之をすることに決つたのであつた。

十二時の夜行に乘込んで深川で蘆別岳にゆく一行と別れて留萌線に乘替へる。蛸の頭の樣なストーブを圍んで駄辯つてゐる中に、增毛驛に着く。驛長さんの世話で馬橇人夫を備つて呉れてあるし、雲井の爺さんも迎へて來てゐる。外は吹雪いてゐた。この通り數日來の吹雪で山の神まで馬橇が通らないといふので今日中にそこへ着けるかどうか心配になつた。兎に角町端れの爺さんの家へ一先づ落付くことにする。

爐端で餅を御馳走になる、時々強い吹雪が入口の前を行きすぎてゆく。爺さんは三十日頃から毎日吹雪いてゐるからもう明朝ぐらゐ晴れるだらうと暢氣なことを言つてる。併し僕等はまだ不安な眼付で時々音の止む吹雪の間を眺めてゐる。又爺さんが山の神の上の臺地の澤頭に炭燒小屋が二軒あつて、一昨年の伐材の時の人夫小屋だつたから可成大きなものだと話した。天幕を張るのも一つの手段であつてこういふ樣に小屋がある以上絶對的のものではなかつた種々議論も出たが爺さんの言を幸に便利なその小屋に泊ることに決めた。

その中に人夫が二人やつて來た。米、シュラーフザツク等を三人にもたして二時頃こゝを出た。海岸の荒れ空は依然として雪を山膚に猛烈に吹きつけてゐる。暑寒別川に沿ふて夏路を眞直に滑つてゆく。肩の荷が非常に重く右撲ぐりの雪片で顏面が痛い。山の神の小學校に着いたのはかれこれ五時時分だつた。先生の奥さんが心よく案内してくれる。

一月五日

七時頃そろ〳〵起き出して來る。早速教室の隅に高く積んである薪を持つて來てどん〳〵燃す。燃えのいゝストーブですぐあつくなる。今日はすぐその上の臺地の小屋まで上がればいゝので緊張しない皆の顏は稍ともすると又寢込んでしまふ。

小學校を出たのはもう九時近くだつた。天氣のことなんか餘り氣にしていない。とはいふものゝ川向ふの雲が昨日より大分薄くなり所々青空が見えんばかりの明るみが見えるのであてた樣な氣がした。

小學校の右に臺地から二本の小澤が出てゐる。左を一ノ澤、右の臺地の中央部まではいつてゐる澤を二ノ澤といつてゐる。その間の尾根を登つてゆく。大した上りでもないが各々のリュツクサツクが重いので進みは案外おそい。Gが汗をびつしよりかいてラッセルしてゐる。唯默々としてスキーを運んでゆく。人夫はと見ると一人が荷を下して路をつけてゐてその跡を他の二人が上つて來る。重そうな輪鏍を一歩一歩と運んでゐるが、案外後れずについて來る殊に七十二の雲井の爺さんが若衆に敗けず元氣なのに驚いた

約二〇〇米程の上りに二時間もかゝる。先つきまで吹いてゐた雪が臺地に出る頃には止んでゐて、大きな針葉樹と濶葉樹の疎らな混合林の平地に出た。併しあたりはまだ薄い雪雲に閉されて尾根は少しも見えない。臺地に出てから五六町眞直に進み、それから次第に右の澤よりに降りてゆくと雪に埋れた淺い澤に小屋を見出した。そこは實に今日から數日間、朝はぞく〳〵する樣な緊張した出發と、夕方には數多い喜びを持ち歸つて、疲れた體を休息させる住家なのである。

小屋は縱十二間、横四間もある大きなものだつた。入口を掘出して中にはいつた。爐にはすぐに火がたかれる。午少し過ぎたばかりなのでラッセル付けとコースを見にすぐに出掛ける。冬空の暮れやすい薄闇時分に歸つて來る。やがて森の上には星が輝き出した。それは幸福と安全の前兆

を暗示するかの樣に。そうして自分の弱い意思はその暗示に祈禱を捧げたい樣な氣分になつて、いつまでも靜かな森の中に立つてゐた。

一月六日

一寸眼を覺すともう足許の爐に大きな焰が立つてゐる。爺さんがその隅で火をヂツト見つめてゐる。その筋張つた手が鍋の蓋の上にかゝゐと、飯のヂク〳〵煮える音が焚火の燃えたつ音と混つて聞えてくゐ。やがてシュラーフザックの中から一人起き、二人起きして爐端は黑い顏で圍れる。筵を潛つて外へ出てみると冷い空氣はひやりとする。空には一片の雲すらなく、淡い星光が殘つてゐる。又風もない樣だ。爺さんが笑談にいつたのが經驗の眞理だつたのが分つた。寒暖計をみゐと最底零下十三度を示してゐる。爐端に歸つて半ば調子づいた聲で「今日はすばらしい天氣だぞ」といつたが誰も答へる者がない。それが當然かの樣にすまして火にあたつてゐる。

テルモスは昨晩の中につめてある。飯を食べるとすぐに飛び出した。爺さんが歸る迄に兎を捕つて御馳走するといつて皆を喜ばせる。小屋を出たのは六時十分。森林の盡きて尾根の細くなつた所迄ラッセルがついてゐる。

昨晩少し降つた新雪に薄くスキーの跡が蔽はれて輕く、氣持ちよく滑つてゆく。この小屋のある二ノ澤に沿ひ、それがつきゐと間隔のある針葉樹の間を大きくうねつて約一時間で昨日のラッセルの終りの地點に來た。昨日頭を見せなかつた暑寒別岳の頂が、眞正面に見える。長楕圓形の頂は輝かな朝の光線をうけずに紫色に霞んで高く見える。それは春霞の立つ頃の內地の山の樣に美しい。寧ろその右の雪庇のかゝつた北に走る鋭い線の尾根とそれらによつて圍れた、岩の出た急峻な谷とに目を奪はれ勝だ。一〇七五米の三角點の瘤が登るべき尾根の障害である。こゝで森林はつきてその上は樺の木が點々と立つてゐる白い尾根が續いてゐる。

一〇七五米の三角點まで大體二時間半位に見積つた。順次にラッセルが交代される。ゆるい廣い尾根だから蛇狀に登つてゆく。雪は相當深い。ひどく汗を出さない中に次々に代つて、いゝ加減ラッセルをすると默々と次があとを引受けてゆく。その言葉少い中にエネルギーの結合が一本のスキーの路を次第に高く彫んでゆく。パシュペッの澤が細くなると同時に三角點の瘤はすぐ近くになる。八時半一休

みしてドロツプスをなめる。天氣はまるで春の樣だ。尾根の上に出た太陽の光線がぽか〳〵する。併し決してのびることは許されない。廿分程で又歩き出した。間もなくその瘤を左に迂廻してその上に出たら、北向きの大きな斜面が眺められた。一昨年の五月あの大きな斜面に愉快にボーゲンを畫いて、三本の曲線を印して下つたときの記憶と、又こゝから望んだ暑寒別岳の姿も印象深い思ひ出である。

皆はもうそこを二十米位下つて、その上の尾根を小さい影になつて動いてゆく。一人殘つて寫眞をとつてゐる。バシュペッの本流は頂上の下の鞍部でつきてゐて、又頂上から東北に出てゐる廣い尾根、それら一面に圓い、そして眞綿で包まれた樣な軟い感じの斜面がとてもきれいだ。九時半最後の白樺のある所で畫食にする。パンは燒いて來ないのでそのまゝ食べる。大抵少食だ。パン一ツ食べるのは少い。ハムを二三片と、テルモスのあつい紅茶を駄飲みしてゐる。上品だか下品だか分らない。一時間程休んで出掛ける。一寸手間どると思つた第二の瘤もその左腹を眞直に傳ふことによつて約廿分で廣い鞍部に出た。頂上は鼻の先にある。二百六十米ばかりの可成急な斜面だ。こゝも數日の吹雪の直後なので雪の深いこと夥しい。常ならば風の強くあたる斜面だからとても堅いクラストの斜面に違ひないんだ。そしてこゝをスキーデポットして一歩一歩確實にシュタイグアイゼンの齒をつきさして登つてゆくのを豫期してゐた。幸か不幸か豫想に反して餘りに深い雪だつた。皆ラツセルにへばる。キツクターンする毎に代つてゆく。こゝが最もつらいアルバイトを要する場所だから懸命に登つてゆく。所々クラストになつた部分があつてスキーが横滑りする。併し時間に餘裕があるので落付いてゐる。一時間を費してこの斜面を登りきつて擴つた頂上に出た。頂上はむろん堅い氷雪だ。三角點の位置はそれより少し南にある。十一時四十分三角點についた。

冬には減多にないすばらしい天氣だ。東北方には大雪連峯、稍南には十勝、蘆別、夕張連山の鋸齒狀の白い尾根が屏風を立てた樣に屹立してゐる。西を向けば群別岳からチライ岳に續く稜があたりを壓する如く立つてゐる。その正面の岩と急斜面に心を引かれる。その他濱益岳、雄冬岳、又はそれらによつて圍れた暑寒別川の上流が谷そのものゝ靜寂な神秘境である。

いつまでも美しさに浸つて居たい氣分は不意にあらはれ來た、早い雪雲に下りるのを餘儀なくされた。卅分ばかり

で下り初めた。鞍部迄はテレマークとクリスチヤニヤのスラロームの曲線が織られつゝ瞬たく間におりてゆく、先頭の丑は豆粒位になつて直滑降で下りてゆく。十分ばかりで晝食した所についた。仰ぎ見れば頂上は既に雲に蔽はれて了つてゐた。再び今日は頂を見ることが出來なくなつた。こゝで二度目の食事をして、又ふりかへり〳〵滑り下りた七人は離れ〴〵にならず氣持のいゝ一團となつて織り亂れて下降する。森林にはいつて行きのスプールを傳つて小屋に歸つたのは二時だつた。小屋にはいつて爐端に腰を下すと知らず〳〵の中のアルバイトに體は可成疲れてゐるのを覺えた。晩には山中の豪遊をして、今日の惠れた天候に豫定よりも早く頂に立つた喜びをば心から喜び合つた。

爺さんが兎を捕るかた〴〵森林のつきる點までやつて來て僕等の登つてゆくのを眺めてゐたそうだ。兎は捕れないで御馳走になれなかつたが、勞る樣な爺さんの眼が父の愛撫の樣に懷しい光を發して僕等と一緒にその成功を喜んでくれた。あくるひは再び重いリュックサックを擔いで增毛まで下つた。爺さんたちの見送りをうけて最終列車でそこを去つた。僕と他の二人は十勝岳に登るべく、深川で分れて旭川行の汽車に乘つた。

スキー兩杖と海豹の皮の研究

小森太郎

スキー杖のごく初期のものは長いものばかりであつたが次第にスキー術の一般民衆化するにつけて、杖の方も優美なる散歩用の杖が用ひらるゝ流行がやつて來た。

それに連れてスキー杖の本來の性質に關して或は旅行用とか山地用とかに關して特別精しく研究するに至つたのである。

正當なる杖の長さは丁度杖の頭のところが腋の下に來ればよいので、長距離旅行にては多少長い方がいゝ。

かゝる長い杖の利益として次のようなものである。

一、平地行進に於て非常に力强く地上を突くを得、故に短きものより一層早く進める譯である。

二、急勾配面にかゝりて外側則ち谷の方の杖は斜面に向いて一つの支へとなり、一方内側則ち山の方の杖は短く持つて居れば何の妨害にもならない。

三、下降ことにスウィングの場合には特に後者のときには體より遠く離れて杖のリングを雪につけてそこを中心としてモーションを易からしめるの利益がある

初心者には多少この寸法より短きを用ふるがよく、則ち腋下より二〇センチメーター位は離れて居る位にて丁度よい加減であらう。あの太いアルパインストックは一本で割合に行進に不便である。スキーといふものは必ずしも下降のみでなく登行も又平地行進も大いに考へねばならない。

杖の木部であるが初心者にははるかに輕い榛の木の杖を使ふ事をすゝめる。熟達者には Tonkingrohr が一番いゝが更に適當なのは胡椒樹を擧げたい。

上手な歐洲のスキーランナーは Pfifferohr を用ふ。非常に輕るくしかしてその人が倒れたが爲めに體の下敷となつて折れるといふ樣なことが少い。アッシュの木は少々どころかあまりにスキー杖には重過ぎるし、時々よく見るがやがてこれも市場から姿を消すの日は近いだらう。

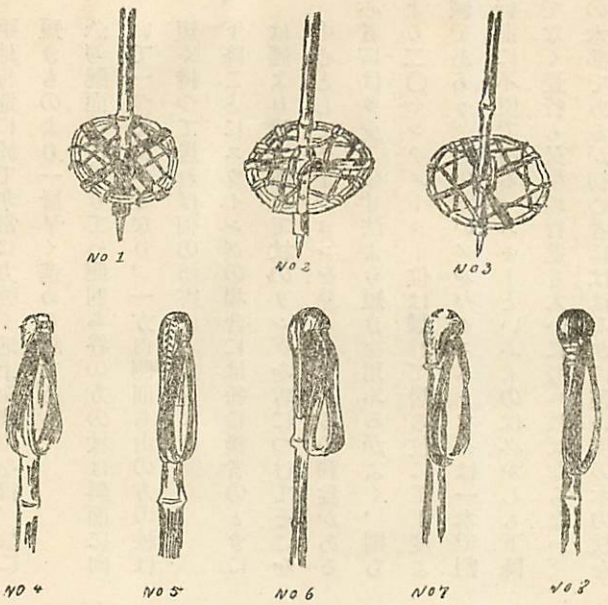
次にリングである。市場に賣つて居るものは大概はあまりに小さ過ぎ且編み方が荒すぎる感がある。

直徑はおよそ二〇センチメーターにて如何なるときにても十七センチメーターより小さくてはいけない。然してリングの編目は細い皮で密に編むべきである。

リングは丈夫なるはよけれど重量は相等に輕るきを要しリングは普通籐で二重なるを要し（アルミ又は木にて造りしをも見るも）その位置が一方にのみしか傾かないようでは困るので、あらゆる方面に傾かなければならない。

よく見るのであるが杖に穴をあけてリングを針金で固着させてあるのを見るが、どうもこれは木部が裂け易い缺點がある。こんなときには穴のまはりに金箍をつけるべきであるがこれも二重になつて反つて重い。先金の金箍に穴を横にあけてリングの針金を通したのを見るが、これもリングの高さまで先金の箍を上げねばならんので又これも重くなる、今のところ圖に示すごとく何れにも傾くので常にリ

ングは雪面に沿ふてある事になる。針金で止めるリングは又その傾きは常に一方にのみ限られるのでこれも大して感心した事でない。



方は固定して居らなければならないのである。

これによりて重量は少しも一方の穴にのみかゝらず二つの孔の全面に別れてかゝつて居る。かゝるスキーリングの圖に示す固定法にてはそのリングの元は杖を二度通してある事になる。然してかゝる二つの孔にて銅の鉸釘が通つて居る。リングはクルクル廻つてはあまりよくない。その固定は杖にて直接に穴をあけるよりも割れる事は少い譯である。

杖の先金はより善き鋼鐵にて造りおよそ五センチメータ

圖の説明

No.1. VILLINGER（ビリンゲル博士）考案のもの

No.2. 鋼鐵の先にて短き眞鑄の金篩にてリングは二本の革にて止める

No.3. ノールウエイ式のリングの付け方

No.4. 巾廣の革紐

No.5. 長手の中味の心入りの革紐は太くながきもの

No.6. 長手の中味無しの太紐

No.7. 長手の梨形の巾廣の皮袋及長紐のもの

No.8. 長手の梨形なる爲巾廣の皮革及長紐のもの

ーの長さなるを要す。しかも先金と金箍は別々に則ち一個のものでなく、先金があつてそれを金箍が別に取巻くようにせねばどうもよくない。全部が一つで成立つて居るものは比較的木部との保持がうまく行かずすぐ離れてしまふもので、金箍は出來得るなれば螺旋になつて木部に這入り込むと理想的である。そうすると木部も常に先金の中にぴつたりと合つて張り切つて居るから決してがた〳〵離れる心配が不用である。

杖の握りのところは不安定な結び方の細い紐ではすぐ切れたり脱れたりするので、革の幅二——三センチメーターの紐にせねば、時によつてはこの革の紐に全體重を掛けねばならんことがある。それも圖に示すごとく根元はぴつたりとして居らなければ、一つ位の捲きつけ樣では一寸と濡れると直ぐとれてしまふ。皮袋をその根元に付けるのは非常によく。第一握り心地もいゝし手袋も破る率が少い。

兩杖に依る新しい制動法

俗に云ふ三本足といふが山に這入ると急傾斜面を下るときは山手の方の傾斜に杖を二本そろへて體重を半分以上もこれにかけてスピードを加減して滑る事がある。事實未知の山にかゝるとどうしてもやりたくなるので又割合に確實であり且安全であるので用ひるが、何しろ一方の側のみに杖を整つてしまふのでその側を變へる間はどうすることも出來ず返つてそのために中心を失つて倒れる事がある。このときにアルペン式の一本杖だといゝのだが、これも使はないときには何にもならないので色々考へた末が次の方法が最もよからうと思ふ。これによつてアルペン式の杖の特長も全部並用し得られたものであらうと思ふ。

一、先づ右山のときにて說明せんに、右手の杖を小指藥指でその頭を握り人指指親指中指を自由にす。それと同時に左の杖を雪面より擧げそのリングを反對の右側の方へ持來る。

二、そのとき右手の三本の自由な指で左のリング又はその少し上を握りて腰を低め右の杖は同時に雪面に引ずる樣うにして左の杖のみで制動を行ふのである。

これだつたら少々急激の坂でも案外樂に杖が使へることゝ思ふ萬一坂の長いときは右の杖は革紐で手首に引掛けるのみにて左の杖の先を右手で握ればいゝ譯である。

海豹の皮の使ひ方及その研究

前回にも述べた通り Steigwachs の發明によつて大旅行高山旅行に於ても割合に雪のために苦しむ事なく快味を味ふ事が出來るに至つたのは確かにスキー界に對する新智識であるが、更に海豹の皮の應用さるゝに至つて一層スキー術の發展の導火線となつた事はお互に大いに喜ぶべき事である。

今迄非常なる急勾配の山坂を Steigwachs で以て平氣で行つて居つたが、大旅行の途中にては決して一定の氣温ばかりでない。則ち朝の寒さにも逢へば日中の太陽の直射をも受け更に夕方には寒氣加つて來り、更に雪の質に於て或はべた雪或は粉雪に出逢ふに至つては全く蠟もその効果は駄目となつて、その一々の狀態についてそれに適した Wachs を塗るのは實に面倒な事であり且如何に注意して居つても多くやる中には思はぬ考へ違ひをして豫期せない苦痛を受ける事がある。悲しいかなかゝる場合すでに應用される Wachs がないのは何ともいたし方がなく、只僅かに Steig und abfahrtswachs がやゝその一部を滿たし得るに過ぎないがこれとしても決して充分なものでもない。只比較的ましだといふに過ぎないのである。

然るに海豹の皮の出現によつて苦もなくこの難問題が解決せらるゝに至つたが、それとてもやはり Steigwachs は不必要とはいへない。

先づ海豹の皮の本質から研究して見たいものである。

一、毛は一樣に密なるを要し、且あまり長からざる事

二、斜に立たざる事、必ず眞直に逆に立つべき事

三、決して途中にてつぎのない事

而してこの皮のスキーに對しての固定法として次の二通りのものあり。

一、締め具にて（金物又は紐にて）固定するもの

二、單に皮のみを Steigwachs にてスキーの滑面に密着さすもの

先づ締め具の方であるがこれは取除しには非常に便利であるが一方から考へると實に不利な缺點がある。

今假りに締め具を腹紐とでも云ふて置くが常にスキーの兩側面に腹紐が出て居るためにその部が雪に引かゝり且急な坂に深い雪のときは實に困るので、あまつさへ皮とスキーとの間に雪が這入つて Eiskrust 氷の皮を造つてしまつて登行には又特別に不自由となり引いては裂ける原因となり、又山の頂にて常にその雪を取除いてからスタートせねばならない事は實にいやな事である。

締具式のものは初心者のみにはよくてそれは割合に必要缺くべからざる敏速を要しないからである。

スキーの裏にて締具のあたるところが何か小さい金具で皮を腹紐にとめてあるので自然その都が高まるので次第に他の部分より損じ方が著るしく遂にはその部に穴が生ずるに至る。

次に蠟付けのものであるがぴつたりとスキーの裏へ密着されるに越した事はない。それには Steigwachs にて附けるべきで、締具式より輕るくて脱しても一寸ポケットへほう込めばよい。且その大なる利益は次のようである。スキーの緣は締具がない故に各モーションも角付けが出來る譯で、もしも登行中に於て下降の急坂に來たときにはそれが一度や二度ならよいが何度も來るとどうしても面倒で自然この緣の何にもない皮が喜ばれる。

締具だとつい自分の行かふと思ふところへも無理して行けない。Sohm の海豹の皮は長い道を文句無しにトラバースも出來ればスウイングも又時にはステムボーゲンも平氣で出來る。だが一つ注意して置きたい事は大なる速度で下つて來たとき本來の皮無しと同じつもりでスウイングはやらない方がよい。よくこんなときに仰向けに倒れて思はず皮を裂いでしまふ事がある。やはり皮は木より柔かいものであることを考へねばならない。

よく Sohm の皮をいやがる人があるがそれは不適當の Wachs の塗り方にて皮が弛んだり付けるのに不便（知らないため）のためであつて、これもよく注意すれば易いものである。

使用法

第一に皮を決して太陽に直射させたりストーブで乾したりしてはだめである。むしろ蔭にて最上なるは風のよく通るところにて又は簡單に室の中につるすべきで、この皮は常にあまり使はないのでよく乾燥させ易いものである。

付けるには皮そのものに Sohm の Wachs を一面に厚くならぬようにあちこちに塗つて廣げるのである。

このときも決してアイロンなどは用ひてはいけない。

又スキーにもいつもの通り薄く一樣に塗り蠟を塗つてその上に皮をあてがつてしづかになで付ける。そのとき蠟は決してこすつたり光らしたりしてはいけない。注意して二三度足ぶみして雪面に壓さへつけてしづかに行進する中に皮はしつかり固着してしまふもので、もういくら使つても

平氣であるが、萬一不用のときはそのまゝしづかに取つてしまつて卷いてポケットに入れて置く。そうすると皮のWachsはそう大して凍つてしまつたりせず、何時にても再び取出して固着し得らるゝので、普通以上にスキー蠟を塗つた後の止むを得ざる際にもさして不自由ではない。

さてSteigwachsもSohmのマークでは黄色のが適して居るように思ふ。しかし兎角Steigwachsであればいゝ譯である。（終）

（一九二五、十二、六）

フインランドに新設せられたるジヤムピングヒルについて

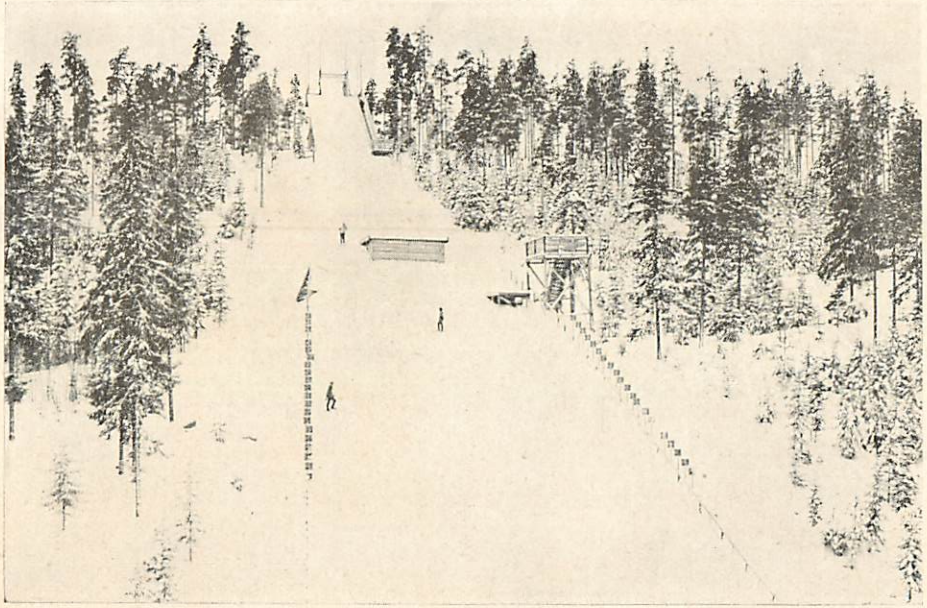
一九二六年度國際スキー聯盟の主催する冬季競技會は周知の如くフインランドの首府ヘルシンフホールスの郊外Lahtiに於て二月四、五、六の三日間擧行せらるゝことになつて居る。

而してフインランドでは昨秋十月十三日に本誌に挿入せる如き設計のジヤムピングヒルを邦貨約三万圓を投じて築造せる由、現在フインランドに滞在の今泉剛一氏より消息があつた。

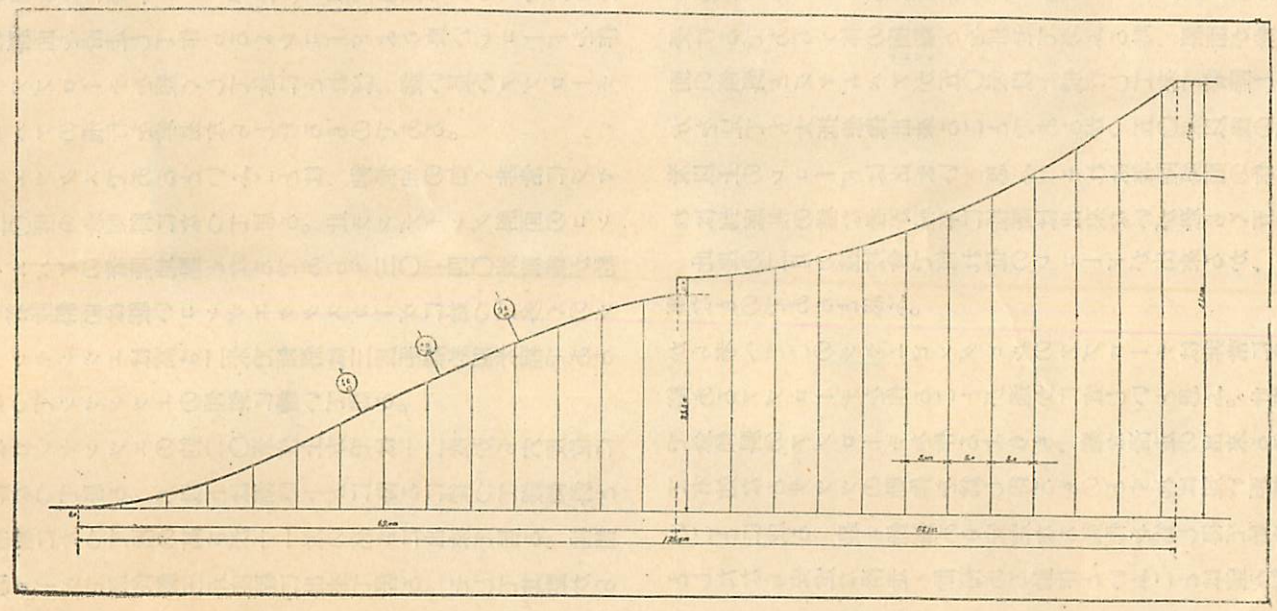
該設計圖は特に氏の御好意により吾々の手にせるものである。

大体は數字の示す如きものであるが、縮圖した爲に多少の相違はあるが是は可成り大規模に作られて居ることを先づ吾々は知るのである。然し是を昨年の大會に使用されたるフランスのシヤモニイのジヤムピングヒルのデザインに比べると少々規模の點で劣る樣に思ふ。

このジヤンピングヒルはアプローチが約七七、八米程で



フインランド・ラハテイー・シヤンツエ



フインランド、ラハテイー、シヤンツエ

ランディング、グラウンドが約壱、五米程で大体アプローチの距離と着陸斜面の距離とは殆んど相似た値を持つて居る

AよりBまでの約そ一七米位の間は三五度の傾斜で此ヒル中での最傾斜部である。そしてGから上方は殆んど直線的カーヴで最傾斜三五度程に出來て居る。そして其點から櫓組になつて櫓の高さが十一米の高さに出來て居る。櫓組になつて居る。C以下は漸時下方に降るに從つて緩傾斜となりシャンツエの約二〇米位上方では一二度から六度位になつてシャンツエの傾斜に續いて居る。

シャンツエは高さ二米で傾斜は三度距離約四米程である

着陸斜面は緩いコンヴエックスカーヴに始つて多くのジヤムバアの着陸地點となるであらう三〇—四〇米前後が約三〇度の急傾斜になつて居る。此ランディング斜面のコンヴエックスであるといふことは、御承知の如く非常にジヤムバアの飛行を容易ならしむるものである。

アプローチを短くして急にとれば、緩い長いアプローチの斜面を滑走して作らるゝレコードより良いレコードを作り得る樣に考へらるゝが夫れも程度問題であつて、五〇米位のアプローチを作つて四〇度四五度の傾斜にしてレコードを伸ばさうとすることゝ、三〇度内外の傾斜の七〇米位のアプローチを作りレコードを伸ばさうとすることは、よしんば前者で後者より數米優るレコードを作り得たとしてもそれは非常に無理なアプローチの滑走をして行くことに必ず成る。そして又滑走スピードが同じ六〇時哩であつたとしたなら安定な滑走と餘裕ある動作といふことは望み難いことに成る。最も餘裕あり安定なる動作を爲し得て始めて有効なるサツツの動作を爲し得るものとすれば短い距離で急傾斜のアプローチを作るよりも、樂な滑走の出來る餘裕あるアプローチを作ることが遙かに宜しいと思ふ。此點から考へてこのジヤムピングヒルのアプローチは非常に見事なものであると思ふ。

此度の二月の競技會で何れ位のレコードが出來るか、それは到底私の樣な者が輕卒に推斷は出來ないが恐らく五〇米以上のレコードは出まいと思ふ。それは着陸斜面の作り方を見ても大抵想像出來ることであるが、五〇米以後の斜面の傾斜とジヤムバアが五〇米以上飛行して來て着陸して受けるであらう体の衝撃(ショック)とを併せて考ふる時、斜面が餘りに緩になつて居る爲に衝撃が大き過ぎてそれに堪え得ないんぢやなからうかと考へらるゝのである。

更にアプローチのスピードを六〇時哩なり五〇時哩と考

へてフライトのカーヴを當て嵌めるならば尙實際と近い飛着陸地點の豫想もつく譯である。

さてこのジャムビングヒルで彼のシャムニィの優勝者タムス君勝つかランドウイク勝つかアメリカのハウゲン勝つかボンナア勝つか誠に興味ある問題である。

伯林から

（木原均氏より）

一九二五年十二月七日

愈々冬が來ました。十日前にあつた二回の降雪で廿センチ許りの積雪が伯林のスキー連を喜ばせて居ります。今年は例年にない早く寒さの來た年だ相です。寒い事は札幌以上だと思はれます。夜は氷點下七度から十四度位になりますし、日中も左程暖くはならず氷點下二、三度位（又は零度）です。僅か許りの雪が消えずに殘つてる位ですから寒さの緩まぬ程度が想像出來るでせう。

スケートは盛んです。どのテニス場も皆スケート場に早變りして了ひました。其處に老若男女が嬉々として樂しんで此國人の幸福さを感じさせます。

昨日（十二月六日）北獨逸スキークラブのスキー大會が伯林郊外グルーネワルドで開かれました。オンケル、トムス、ヒュッテの傍にあるシャンツエでジャムプの競技がありました。Vorlauf, Aufsprungbahn 共に廿五米許りの小規模のものです。

一番始めに Sensation des Tages として Dr. Baader の飛び初め（Eröffnungs Sprung）があつて競技が開かれました

同氏は獨逸ジャムパーとして有數の人で此の小さいシャンツエでは物足りない樣子でした。（野球に始球式がある

樣に飛び初めはいゝものでせう、どうです一つやつては）

Baader の今までのレコードは詳しく知りませんが四十米迄の記錄がある相です。十數人が競技に參加しましたが一等の人の外落付きのあるジャムバーはありません。

新聞記事には一整に失望したと書きました。無理もありません。大伯林ともあらうに此見すぼらしいシャンツエを見ては悲觀するでせう。バーンが狹くて飛下りてからは、見物人が邪魔をして後の方では少しも見えない程度です。ジャムバーは腰を曲げて恐る〳〵辷り落ちてるのが多かつたのも練習不足とは云へ悲慘なものでした。

選名	距離	1	2	3
I Seelandt	19.125	17.5	18.0	17.0
II Binder	14.75	9.5	9.5	10.5
III Kern	10.79	11.0(倒)	11.0	14.9

番外の Dr Baader は十八、十九米突を數回飛びました

競技については記すほどの事もなさ相ですから之で止めませう。

ラングラウフもありましたが參加者の多い事あられもない姫御前否若い斷髪の女が勇敢に走つた事を附加へませうAlte Herrn（三十五才以上）や Anfänger の競走のあるのは誰にも競技をやらせるいゝ習慣と思ひます。

冬季の運動に限らず凡ての運動が學生の牛耳を握つてる間は幼稚な時代だと痛感されます。シュナイダーを初め、バーダーその他運動界に名のある人は學生ではありません

松方兄の話ではスイスに於て學生はスキーの方面で到底優秀な位置を持つてない相です。

その點で日本の現狀は如何でせう。卒業後は直ちに先輩としてスポートに遠ざかつて仕舞ひ時々口を出して「後輩」を困らせたり又は審判とか名譽の位置におさまつたり、ひどいのはケロリと忘れて仕舞ひます之は實に殘念な事です書き過ぎましたが少しは當つた所もあると想ひます。

日本が遠くに離れて國際的競技に參加する機會の少ない事もその原因になりませう、然し車を索いて坂に上る樣な氣持ちで不斷の努力精進が望ましいものです。

一九二八年!! 此の年こそすべての國の Sport Leute がその日の舊闘と光榮を待ち望んで居る第九回オリンピックの開かれる年です。

冬季競技はスイス國に定まつたらしく、その候補地として Davos, St. Moritz, Engelberg 等があげられて居ります

二十四キロリレー　大湊要港部
（高橋　蕗野　田村　鎌田）二時間三分廿三秒

選　二月十六日十七日
主催　樺太中央スキー倶樂部
場所　豊原市外
十粁ディスタンスレース
1　關　一時間三分二十五秒
2　高　松　一時間四分十四秒
3　渡　邊　一時間五分三十一秒
二十五粁ディスタンスレース
1　吉　岡　二時間四十分十一秒
2　中　島　二時間四十四分四十二秒
3　松　田　二時間四十五分二秒
ジャムピング
1　高　田　一八・九六點
2　牧　田　一八・七五點
3　大　森　一八・五七點
4　新　井
5　仲　井
6　野　呂
二十四キロリレー　亞庭チーム（二時間廿分十七秒）

○北海道豫選　二月十六日十七日
主催　北海道山岳會
場所　札幌郊外三角山山麓
十粁ディスタンレース
1　今　井（小廳商）五十分十九秒
2　箕　輪（樽　中）五十三分
3　内　山（水　産）五十三分〇四秒
4　中　村（小廳商）
5　金　田（緑　陵）
6　小　川（北　大）
二十五粁ディスタンスレース
1　福　田（北　中）二時間十三分四十六秒
2　中　山（小廳商）二時間十六分
3　岡　村（北　大）二時間十七分五十五秒
4　長谷川（小廳商）
5　本　間（小廳商）
6　中　村（北　中）

ジャムピング（最長不倒距離二一米　神澤）

1　杉　村（北　大）一八・二七點
2　吉　成（万　字）一五・四五點
3　村　本（北　大）一五・一三點
4　讃　岐（炭　礦）
5　緒　方（温）（北大）
6　末　武（樽　中）

二十四キロリレー

綠陵クラブ　二時間十一分十九秒

○信越豫選　二月十六日十七日

主催　高田スキー團
場所　高　田　郊　外

十キロディスタンスレース

1　石　塚（長岡倶）一時間五分三十六秒四
2　宮　下（妙高倶）
3　内　山（刈谷倶）
4　田　中（フラターナル）
5　齋　藤（金谷倶）
6　山　口（飯山中）

二十五粁ディスタンスレース

1　上　石（高田師）二時間十八分五秒
2　後　藏（妙高青）
3　田　近（高田師）
4　石　塚（長岡商）
5　丸　山（高田師）
6　常　山（高田師）

ジャムピング（最長不倒距離十五米一〇）

1　加久井（三　間）十五・一三點
2　中　村（米　峰）
3　小　松（法　政）
4　田　中（長　商）
5　飯　田（高田師）
6　高　橋（飯山協）

二十四キロリレー　高田師範チーム

（高橋　石野　丸山　上石）

二時間三十四分三秒五分ノ四

國際スキー競技會のプログラム

本年二月フィンランドに於て第九回國際スキー會議及びスキー競技會の開催せらるゝことは先に報じてをいた通りであるが、最近右競技會のアインラードウングが來たが、夫によると競技種目及び日時は大体次の通りである。

二月四日（木曜）各國軍隊の射撃スキー競走
距離二五キロメートル
二月五日（金曜）複合競技のディスタンスレース
距離一五キロメートル
二月六日（土曜）複合競技のジャムプ
二月七日（日曜）長距離競走五〇キロメートルジャムプ

因に本競技は全て國際スキー聯盟制定にかゝる競技規定の下に擧行せらるゝのであるが、軍隊の射撃競走に就ては別に規定を設けることになつてゐる。また一競技に對しては同一國より一〇名以上出場することは出來ないことになつてゐる。（かの生）

Winter-Season in Switzerland. 1925/26

今シーズンに於ける瑞西スキー地中で第九回國際オリンピック冬季大會場に擬せられて居る三大スキー地に於ける今年度のプログラム。

Davos.

Nov. スキー術指導講習
Dec. 1st Week スキー旅行
3rd Week Parsenn へのスキー旅行
4th Week Nüllisgrüdi へのスキー旅行
Dec. 26 クリスマススキージャムピング競技會
Dec. 5th Week Parsenn へのスキー旅行
Jan. 3rd Week スキーレース
Jan. 4th Week スキージャムピング競技會
Feb. 2nd Week 國際 "Ski-Derby"
March Ski-Gymkhana, Slalomrace,

Engelberg

クリスマスより新年まで S. S. A. 主催によるスキージャムピング指導講習
Jan. 1 スキージャムピング競技會

シーズンの間　スキーレース Ski-Gymkhanas,

マラソンレース　散紙競走

St. Moritz

Dec. 1st half　スキー指導講習會

Dec. 26　Julier Schanze に於てクリスマス

スキージャンピング競技會

Jan. 16. 17.　英、瑞、伊、獨、墺及チエツコ各大

學間の國際スキー競技會

Jan. 23　Julier Schanze に於てスキージャム

ピング競技會

Feb. 1st half　Julier Schanze に於てスキージャム

ピング競技會

Feb. 10. 11.　同　上

March　"Alpina" スキークラブの Corviglia

Hut からのスキー競走

シーズン中他に英國スキークラブのスキーテストある由

H. U. S. V. 近着圖書

Jahrbuch (1912) Skiklub Salzburg

Ski-Chronik (1913)

Der grosse Sprung

Ski-unterhaltungen

Skiführer durch das BerchtesgadenerLand

以上木原均氏より寄贈

○ベテスツリアン（八十號）　神戸徒歩會

○ヌプリ第三號　北海道山岳會

○山の響　阪神トキワ山岳會

○マウンテン　神戸山岳會

本誌の編輯その他山とスキーの會の仕事に就ては現在小生は何等干與致して居りませぬからどうぞ御含み置き下さい。從つて會の事務に關しては直接會の方へ御申出でを願ひたいと存じます。また小生個人宛の御用は何卒自宅（札幌市北三條西十五丁目）宛にお願ひ致したいと存じます。

大正十五年二月

加納一郎

スキー並附屬品
製作販賣

(カタログ呈)

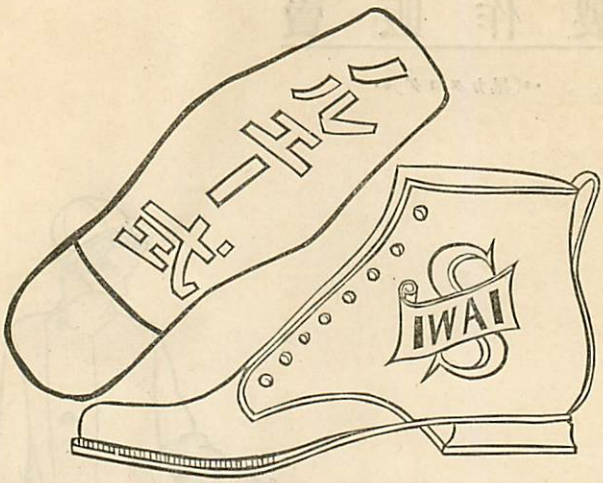
札幌

小谷運動具店

電話一五六八番
振替七九六四番

榮光上買御下殿宮政攝賜

スケーチイングシユース



アルパイン式
ノールウエー式

最上金貳拾圓
上等金拾八圓
中等金拾五圓
並等金拾參圓

文數御一報次第御郵送
申上候

—〔創業明治拾一年〕—

各種製靴販賣

岩井靴店

札幌市南一條西二・電話百二十四番

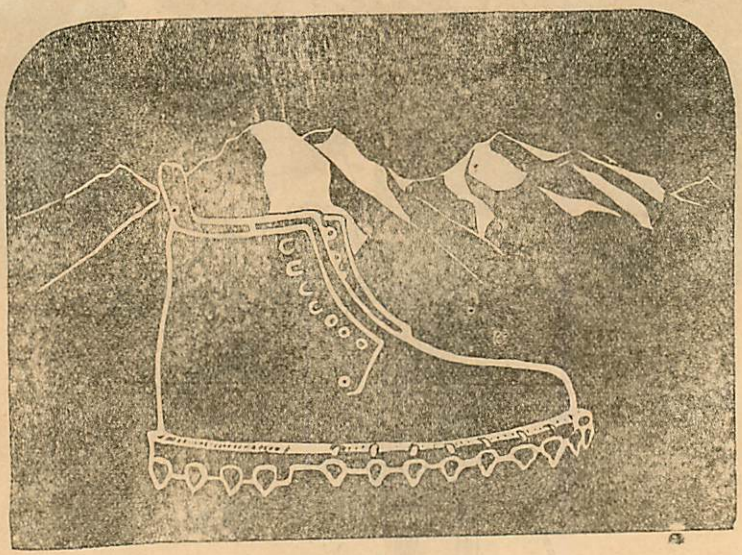
優秀ナルスキート其用具

小樽

梅屋運動具店

第二回畜産工藝博覽會ニ於テ

一等賞金牌受領



登山靴とスキー靴

東京市本郷區四丁目角

太田屋靴店

電話小石川四七一二番

振替東京六一二七番

◆山とスキーの會は北海道帝國大學文武會スキー部の有志が、此の雜誌を發行する爲に作つてゐる會です。

◆スキーを研究せられる人、登山に趣味を持たれる方が一人でも多くお讀み下さることをお願ひいたします。

◆山岳及びスキーに關して何なりとも御寄稿下されんことをお願します又印畫の御惠送を切望致します。原稿紙は御申越次第お送り致します。

◆原稿は、、。を一字とし、行を更めるときは一字下げること。

◆記事中の數量は全て、C・G・S・系によられん事を望みます。

◆雜誌代金に就て一應下記の諸項を御承知下さい。

◆本會より發する電信略號を「ヤマ」として居ります。

定價　金參拾錢

＊前金御申込か、現金でなければお渡しいたしません。

＊御送金はなるべく振替にてお願致します。

＊六冊分前金拂込の方には送料を頂きません

＊前金の切れた時には最後の分の包裝にその旨記します。次の御送金あるまで配本を見合せます。

＊本誌は營利的の刊行物ではありません。紹介、緣故の有無にかゝはらず雜誌の代價は頂きます。

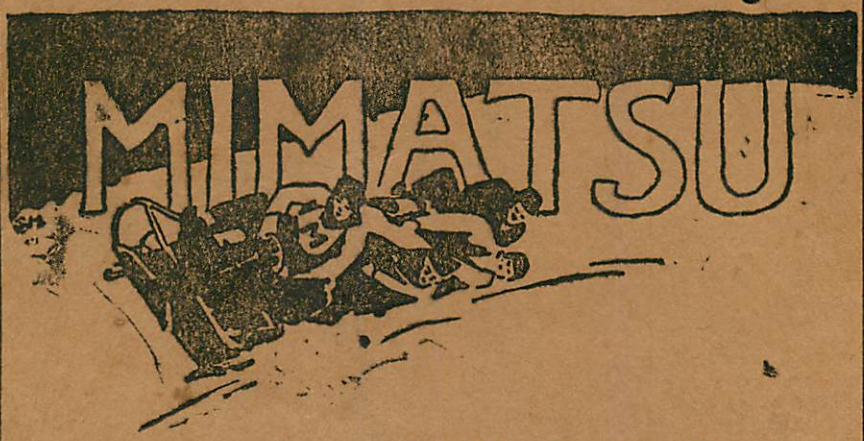
大正十五年一月三十日印刷
大正十五年二月一日發行
（毎月一回一日發行）

編輯者　相川正義
印刷兼發行者　廣田戸七郎
札幌市北一條西二丁目
印刷所　札幌印刷株式會社
札幌市北六條西六丁目
發行所　山とスキーの會
振替口座小樽八四九五番

La Gazeto
de la
Monta kaj Skia Klubo
No 57. Febuaro 1926. Sapporo. Japanujo.

大正十二年七月二十七日第三種郵便物認可
大正十五年一月三十日印刷納本
大正十五年二月一日發行

The Leading Winter Sport House.



美滿津特製

慶大山岳部、學習院山岳部、早大スキー部
一高スキー部
帝大山岳、スキー部御用

スキー及びビンディング
ポップスレー
スレッデとトボーガン
スノーシュウ

冬期登山用具各種
ウキンター・キャンピング用具
フキギュア・ホッキー・スピード
スケート
アイス・ヤット等

合名會社
美滿津商店
東京・本郷・赤門前
電話(小石川)八四五・二〇七一

山とスキー 第五十七號

定價參拾錢